

高 大 人 文 学 報 第 4 期
NUK Journal of Humanities
2019 年 6 月 頁 21 - 42
DOI: 10.6648/NUKJH.201906_(4).0002

原爆マンガから見るネット言説と販売戦略との関係 をめぐって

—この史代の『夕風の街 桜の国』を中心に—

何資宜

国立高雄大学東亜語文学科 助教授

徐柏茵

国立台湾大学日本語文学科 修士生

要約

『夕風の街 桜の国』（2004、双葉社）が発行された際、最も強調された宣伝フレーズは「広島のある日本のあるこの世界を愛するすべての人へ」という言葉である。こうしたフレーズにより、「広島原爆事件の教訓は日本人だけではなく、世界の人々は不可分な関係になり、全世界と共に直面する歴史事件である」と意味付けられ、各国のマスメディアによって作品が紹介されることになった。

そして興味深い出来事として、原爆マンガの元祖である『はだしのゲン』（1975-1987、汐文社）が世に出てから約 17 年の間、原爆をテーマにしたマンガは極めて少ないのにも関わらず、『夕風の街 桜の国』が世に出たのを皮切りに、原爆に関するマンガ作品が雨後の筍のように出版されていることを挙げたい。極端に言うと、「マンガというジャンルを超え、社会現象になった感もある」とまで言われているほどである。こうした背景をもとに、従来タブーとされてきた感のある原爆マンガが、ネット時代

である今日においていかに形成され、消費され、また、読者にどのように受容されたのかを検討したく、本稿は、その社会現象を作ったきっかけとされる『夕風の街 桜の国』に焦点を当てて論ずるものである。

キーワード：原爆マンガ、『夕風の街 桜の国』、ヒロシマ、ネット言説、販売戦略

一、はじめに

第2次世界大戦において米国は、日本を敗戦に追い込むべく、1945年8月6日に広島へ、同9日に長崎へ、それぞれ原子爆弾を投下した。これが、後に有名な歴史的事件として挙げられる、〈ヒロシマ〉と〈ナガサキ〉¹である。原子爆弾の投下によるその爆発は、強い炎、衝撃波、爆風、熱線、放射線、黒い雨などを起こし、目標地に大きな損害を与えた。爆発した瞬間、被爆者は衝撃波と高温とを受けると共に、ガラスの破片ややけどなどによるひどい外傷を負い、さらに、放射線によって引き起こされる遺伝子変異になり、身体的に大きな被害を受けることが多い。また、放射線を浴びたことによる生理的な苦しい痛みだけではなく、多くの人から「汚い」と敬遠されるため、社会的にも精神的にもダメージを受けることとなり、被爆者の子孫でさえも「汚い」と見なされ、現在においても差別と偏見が根強く残っている²。

〈ヒロシマ〉と〈ナガサキ〉の事件から約70年が経過し、現代を生きる我々は、この歴史的な事件を人ごとのように捉え、ただ過去の物語にすぎないと考えている人も多いようである。だが、一方で『夕風の街 桜の国』の作者は、「東京に来て暮らすうち、広島と長崎以外の人は原爆の惨禍について本当に知らないのだという事にも、だんだん気付いていました。わたしと違ってかれらは、知ろうとしないのではなく、知りたくてもその機会に恵まれないだけなのでした³」と述べている。言い換えれば、こうした言葉からは、過去の戦争に関心を持っている若者も、決して少なくないことがうかがえるのである。

実際、『夕風の街 桜の国』が世に出された際、最も強調された宣伝フレーズは、単行本の帯に付された「広島のある日本のあるこの世界を愛するすべての人へ」というものである。このフレーズによって、「広島原爆事件の教訓は日本人だけではなく、

¹ 広島県や広島市などの地名を指す場合は「広島」と漢字で表記されるのが一般的なのに対し、〈ヒロシマ〉と片仮名で表記する場合は、広島市への原子爆弾投下という事件自体やそれに関する言及を指す。なお、〈ナガサキ〉も同様に、長崎市への原子爆弾投下やそれに関する言及を指す。

² 浜邦彦(2007-2008)『『夕風の街 桜の国』に見る身体・言語・性』『アジア太平洋研究センター年報 第5号』アジア太平洋研究センター、30-31頁。

³ こうの史代(2004.10.20)『夕風の街 桜の国』後書き、双葉社、102頁。ただし、引用は39刷(2017.1.13)による。

世界の人々は不可分な関係になり、全世界と共に直面する歴史事件である⁴」と意味付けられ、各国のマスメディアに作品が取り上げられることとなった。そしてそうした宣伝が功を奏したのか、2019年現在において、この作品の翻訳本が10カ国以上にわたって出版されているのである。

なお、「広島のある日本のあるこの世界を愛するすべての人へ」というフレーズは、単行本では目次に続いて4ページ目の口絵部分に大きく掲げられているが、単行本の帯にも付されていることから、「作者の積極的意図というよりは、出版社の販売戦略としてのキャッチコピー⁵」であることは言うまでもない。そして最も興味深いこととして、原爆マンガの元祖とされる『はだしのゲン』が発表されてから約17年の間、原爆をテーマにしたマンガは極めて少なく、あったとしても長編作品のうちの一部（挿話）のような存在であったり、もしくは学術や教育の目的で出版されたりするのがほとんどである。こうした中、2004年に『夕風の街 桜の国』が世に出たのを皮切りに、原爆に関するマンガ作品が雨後の筍のように発表されるようになり⁶、インターネット、テレビ番組、新聞といったメディアにも積極的に取上げられ、まさに「マンガというジャンルを超え、社会現象になった感もある⁷」と言われるほどである。従来、タブー視されてきた感のある原爆マンガが、ネット時代である今日においていかに形成され、消費され、また、読者にどのように受容されたのかを検討したく、本稿は、その社会現象を作ったきっかけとされる『夕風の街 桜の国』に焦点を当てて論ずるものである。

二、その表現手法とネット読者の評価

『夕風の街 桜の国』の作者であるこの史代は、1968年9月28日に広島県広島市に生まれた。広島大学理学部に在籍中はイラストマンガ同好会に所属し、マンガ家に

⁴ 川口隆行(2005.08)「メディアとしての漫画、甦る被爆都市の記憶—『夕風の街 桜の国』」「原爆文学研究」第4号 花書院、135頁。

⁵ 前掲川口、88頁。

⁶ 『夕風の街 桜の国』が発表されるまで、広島原爆事件を描いたマンガは『はだしのゲン』が最も有名である。しかし、『夕風の街 桜の国』が世に出た後、『この世界の片隅に』『消え行く少女』『さよならアトミック・ドラゴン』など、同様のテーマを題材とした作品が多く発表されるようになった。詳細は巻末資料1を参照されたい。

⁷ 前掲川口、84頁。

なるため大学を中退した。その後、マンガ家のとだ勝之や谷川史子などのアシスタントを経て、1995年、双葉社のマンガ専門雑誌『漫画アクションファミリー増刊 クレヨンしんちゃん特集号』に、マンガ『街角花だより』がデビュー作として掲載された。その後も、作品を描き続けてはさまざまな作品を発表しているが、2004年に『夕風の街 桜の国』が世に出るまでは、「ほとんど無名と言ってよかった⁸」といった具合で、「熱心なマンガファン以外には殆ど知られていなかった⁹」という。

2004年10月に双葉社より出版された『夕風の街 桜の国』は、「夕風の街」「桜の国（一）」「桜の国（二）」の3編からなる連作短編集である。その第1話の「夕風の街」は、2003年9月に双葉社の『WEEKLY 漫画アクション』に掲載されたもので、原爆投下から10年を経た、広島市内の基町バラック（通称「原爆スラム」）を舞台に、被爆者の母娘を中心に、娘である皆実の恋愛や原爆症の発病に至る心の動きを描いた作品である。そして、続く第2、3話の「桜の国（一）」と「桜の国（二）」とは、2004年に双葉社の『漫画アクション』に掲載されたのち単行本に収まったが、それぞれ、戦後32年を経過した1987年の東京と、戦後59年を経た2004年の東京と1960年前後の広島を回想シーンを舞台に、被爆二世である主人公が広島を旅し、自らのルーツをたどる姿が描かれている。

この作品は、被爆者や被爆2世の日常生活に焦点を置いているものであるが、〈ヒロシマのピカドン〉がテーマの背景にあるため、インターネット上を中心に、原爆マンガの正典とされる『はだしのゲン』を引き合いに出しながら、両者を読み比べるといったパターンが多く見られる。そして、これに関連する先行論文として、川口隆行（2005）は、『夕風の街 桜の国』と『はだしのゲン』との二作における表現方法について、次のように述べている。

そもそも、『はだしのゲン』が、原爆の惨状や皮膚のケロイドを強調することによって恐怖を喚起し、「恫喝の平和」を促すというイデオロギー構図（交通事故の写真を見せて、安全運転を勧める！）を前面に押し出すのに対し、『夕風の街 桜の国』はどぎつい政治的主張を極力抑制する。（中略）。絵の線も、『は

⁸ 前掲浜、30 頁。

⁹ 前掲川口、83 頁。

だしのゲン』が六〇年後半から七〇年代にかけて少年誌で流行していた太い、濃いラインを使用するのに対して、『夕風の街 桜の国』は細くて、柔らかいラインを使用しており、スクリーントーンのたぐいも一切使わない、手描きの「あたたかみ」を感じさせる素朴で郷愁を誘うものとなっている。¹⁰

また、川口のこの論説を引いて、浜邦彦（2008）はさらに、具体的な場面を取り上げて次のように述べている。

太田川の川面を埋め尽くす死体の絵（『夕風』P.22）は、およそ写実的な描写とはかけはなれた、まるで書きなぐったいたずら書きであるかのような幼稚な線で描かれており、端的に言って読者に異様な印象を与える。中沢啓治の『はだしのゲン』が、劇画表現の実写性と記号性を限界まで駆使することで、被爆後を執拗に表現しようとしたこととの落差は、印象的である。

確かに、二つのマンガを読み比べると、『はだしのゲン』における被爆の惨状はかなり視覚的なものである。例えば、川に浮かぶ死体を描いた第2巻156頁（『はだしのゲン』、図1）や、第3巻8頁にある腸が露出している被爆者が水を探すために徘徊する様子を描いたシーン（同、図2）は、最も代表的なものであろう。



（図1）『はだしのゲン』第2巻、p. 156



（図2）『はだしのゲン』第3巻、p. 8

¹⁰ 前掲川口、84頁。

こうした写実的な手法を用いた『はだしのゲン』に対し、『夕風の街 桜の国』は、原爆から 10 年後を作品の舞台としているため、被爆のシーンそのものが描かれていることが少ない上、例えば、川に浮かぶ死体を描くような場合にも、以下の図 3 のように、細い線で抽象的に表現するなど、写実的な要素を避けている。



(図 3) 『夕風の街 桜の国』 p. 22

両者においてこうした表現手法が相違する理由はさまざまなものが考えられるが、まずは、二人の創作者の生い立ちによるものだということが挙げられよう。『はだしのゲン』の作者である中沢啓治は、自身が被爆を体験しており、その作品も自伝的要素が強いもので、まさに、作者自らが経験した原爆への記憶をそのまま絵で表現したのであると言えるだろう。一方、『夕風の街 桜の国』の作者は、「広島市に生まれ育ちはしたけれど、被爆者でも被爆二世でも」ないため、過去のあの悲劇が表象不可能なものとなり、かえって〈ヒロシマ〉から遠く離れた距離でこの歴史的事件を眺めつつ、「柔らかく」「素朴で郷愁を誘う」作品を表現し得たのではないかと推察できる。

ただ、あの残酷な悲劇をあえて「柔らかく」「明るく」表現したのには、他にも理由があったと考えられよう。周知の通り、『はだしのゲン』は原爆マンガの元祖とされており、「原子爆弾投下」という現実を学ぶことができる—参考書としての側面を持つ作品だ—という声を受け、1980 年代から多くの図書館や小中学校の図書室に置かれているという。さらに 1983 年に『はだしのゲン』のアニメ化作品が公開されると

ともに、小中学校の「平和学習教育時間」に用いられるようになった。

ただ、これについては、そこに現れるリアルな描写があまりにも残虐なため、トラウマになったという者も多く¹¹、同作のマンガやアニメを学校で鑑賞されることについて、批判の声も多く寄せられているという¹²。例えば、大手検索サイトのグーグルで、「はだしのゲン ト라우マ」というキーワードで検索した場合、約 119,000 件の結果がヒットする。さらに、ヒットした記事やコンテンツなどを詳細に見ると、「描写がハード過ぎ」「気持ち悪い」「怖い」「リアルに吐きそう」といったものをよく目にする。また、ダ・ヴィンチ電子ナビが行った「今まで読んだ戦争ものやパニック系の漫画で衝撃を受けたものは？」というアンケートでも、『はだしのゲン』を挙げた人が断トツだった¹³とされ、「アラフォー世代のトラウマ映画」にまで選ばれているという¹⁴。このように、原爆マンガの元祖とされている『はだしのゲン』は、教育界において参考書の類いとして利用されている一方で、読者の反応は不評なものも少なからずあり、まさに賛否両論の作品だと言えよう。

片や、『夕風の街 桜の国』の作者であるこうのは、元来「ほのぼのとした作風¹⁵」を持っており、原爆をテーマとした同作も、あえて「柔らかなライン」や「明るいタッチ」で描いたのも、『はだしのゲン』の読者の酷評や「トラウマ」といったものを、ある程度、認識や把握をした上で方向付けたものだと考えられよう。「被爆を扱った難しいテーマ」に取り組みつつ、学生時代に「平和記念館や原爆の記録映像で倒れか

¹¹ 吉村和真・福岡良明（2006.7）『「はだしのゲン」がいた風景—マンガ・戦争・記憶』梓出版社、190-200 頁。

¹² 『はだしのゲン』は、原爆マンガの正典とされてきた一方で、その写実的な表現や天皇批判・社会批判といった内容によって、少なからぬ反感を招いているのも事実である。現に、今でもなお、教材や教科書として取り扱うべきなのかという議論が激しく交わされている。例えば、2012 年 8 月にあった島根県松江市の事例では、同市の市民から寄せられた「間違った歴史認識を植えつける恐れがある」という声を受け、市教委がマンガの内容を改めて確認・検討した結果、「首を切ったり、女性への性的な乱暴シーンが小中学校には過激」とであると判断し、同月の校長会において、閉架措置とできるだけ貸し出さないよう口頭で通知し、これにより、同市内の小中学校 49 校のうち、『はだしのゲン』全巻を保有していた 39 校全てが、閉架措置を取ったという。

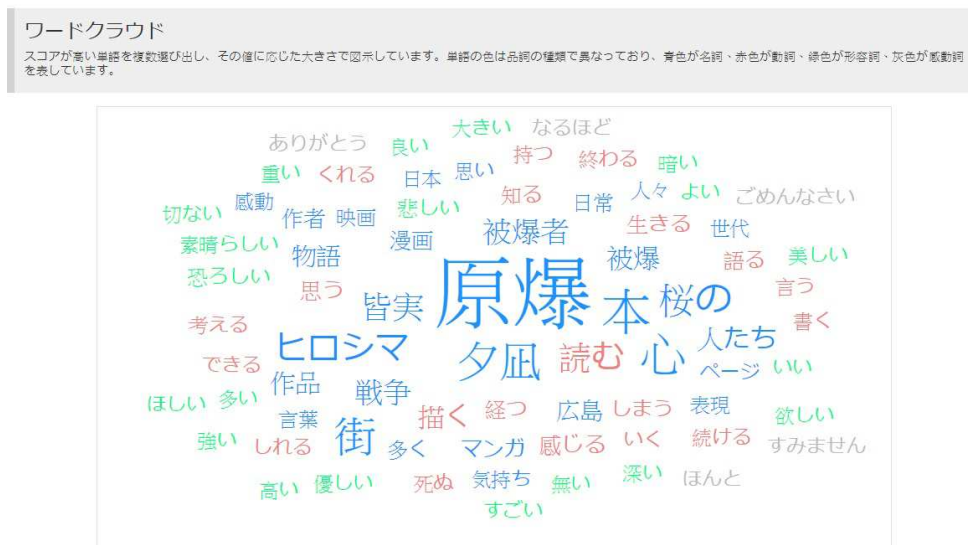
¹³ 詳しくは、「『はだしのゲン』以外にも「まだまだあった！忘れられない“トラウマ”漫画アンケート」（ダ・ヴィンチニュース）を参照。 <https://ddnavi.com/news/161777/a/>（最終閲覧日：2019.2.20）

¹⁴ 詳しくは、「アラフォー世代のトラウマ映画：『はだしのゲン』『震える舌』『この子の七つのお祝いに』ほか」を参照。 <https://middle-edge.jp/articles/wf54I>（本件急閲覧）

¹⁵ （2010.12.22）「夕風の街 桜の国」編集者が明かす誕生秘話（NIKKEI STYLE） <https://style.nikkei.com/article/DGXZZ019087110Z21C10A1000000?channel=DF130120166059&page=9>

けて回りに迷惑をかけ¹⁶」たこうののことだから、インターネット上で散見される『はだしのゲン』への批判を、知らないはずがないことは容易に想像でき、そうしたテーマの作品を商業誌で発表する以上、ネット上に流れる読者の評価を意識するのも必然であるとも言えよう。

言ってみれば、原爆マンガの約束事であるリアルさや残酷さ、煽情的なメッセージの発信をあえて回避することにより、この作品は、2019年1月現在、AMAZON.JPにおける五つ星式の商品評価において4.6という非常に高い評価を得ることができたと考えられるのであろう。そして、こうした評価を分析すべく、そこに書き込まれた465件もあるカスタマーレビューの中から、「〇人のお客様がこれが役に立ったと考えています」という項目で、15人以上の数字を獲得したレビュー118件を抽出し、そのすべての文字内容をテキストマイニングした結果、次に示す図4のような結果が得られた¹⁷。



(図4)抽出した118件のレビューをテキストマイニングした結果

上図のうち、更に緑色で示される形容詞について注目すると、以下の図5に示すように、「悲しい」、「恐ろしい」というのが見られるものの、「いい」「優しい」「美しい」「素晴らしい」といった言葉も上位に位置し、戦争や原爆が持つ堅苦しいイメ

¹⁶ 前掲こうの後書き、102頁。

¹⁷ UserLocal テキストマイニングツールによる検索結果。データー採取日：2019.1.22
<https://textmining.userlocal.jp/results/XtwvGjrgHFfzsswFxmTrr3JqMSEvirZ> (最終閲覧日：2019.2.20)

ージや、「怖い」「リアルに吐きそう」といった『はだしのゲン』の読者批評とは、ほぼ正反対なものが多く見られる。

形容詞	スコア	出現頻度
いい	0.34	23
悲しい	7.77	19
優しい	3.72	18
美しい	3.82	17
素晴らしい	3.59	17
深い	4.12	17
良い	0.37	15
多い	0.67	15
無い	0.88	15
強い	0.98	14
欲しい	0.60	14
ほしい	0.75	12
恐ろしい	5.10	12
重い	1.68	10
大きい	0.70	9

(図 4) テキストマイニング結果を形容詞についてランキングしたもの

もちろん、AMAZON のカスタマーレビューは、ネット上で散見される読後感や評価のほんの一部にすぎないが、ネット上でのすべての評価を「逐次検討することはほとんど不可能に近い」というのもまた事実である。それでも前述した結果から見ると、これらのネット言説を「ざっと見渡しただけで十分理解されるのは、書き込みの絶対多数がこのマンガを推奨する立場に立っており、厳しい批判、否定的評価といったものは、ほとんど見かけることができない¹⁸」という川口の説を裏付けるのは十分であると言えよう。そしてこれらのネット言説は、「プロになって 10 年」「そろそろやめようかな」（2005. 8. 6 朝日新聞）との思いを抱いていたこの史代を、一夜にして著名マンガ家に祭り上げた原動力の一つとなったとともに、従来においてタブーとされがちであった原爆をテーマとしたマンガを、広く話題とした最も有力な後ろ盾

¹⁸ 前掲川口、87 頁。

であると思われる。

三、『夕風の街 桜の国』の出版事情

その名が広く知られるようになる前のこうのは、日常生活の物語を中心的なテーマとしたマンガを描いていた。ただ、2002年の夏、編集者の染谷誠が、こうのの出身が広島であることを知り、「広島の話を描いてみない？」と勧めた。染谷は「戦争、特に原爆が主題の漫画をつくりたかった¹⁹」と言ったが、こうの自身は「被爆者でも被爆二世でもありません」という理由から、原爆マンガを描くことをためらった。しかし、こうのは結局、染谷を信頼して、「いちど挑んでみる²⁰」と言い、原爆マンガを描くことを決めた。

ただ、取材を始めたこうのは、自身が暮らす東京では、周りの人々が原爆のことをほとんど知らないということに気付いた。また、原爆のことについて被爆地以外の人々が「知りたくてもその機会に恵まれないだけなのでした」²¹という声が耳にしてさらに驚いたという。そして、こうした体験が後押しとなり、こうのは、原爆マンガを描くことを改めて強く心に誓ったのである。その後、原爆関連の資料の調査に1年間ほどを費やし、ついに「夕風の街」を描き上げて、『weekly 漫画アクション』2003年9月30日号への掲載を果たした。こうして世に出た「夕風の街」は、雑誌掲載後、瞬く間にネット上で話題になったが²²、その勢いで後に単行本化される『夕風の街 桜の国』も第8回文化庁メディア芸術祭の大賞や、手塚治虫文化賞新生賞を受賞するなどし、マスメディアにも注目されるようになり、映画化、舞台化、ドラマ化などを展開した²³。

ただ、上述した雑誌出版から各賞の受賞に至る経緯だけを見れば、滞りなく運ばれたようにも見えるが、その出版事情を細かく検討してみると、決して順調ではなかったことが分かる。例えば、単行本『夕風の街 桜の国』の最終ページにて、『夕風の街』の初出が「weekly 漫画アクション 2003年9月30日号」であることが標注され

¹⁹ (2005.6.14)「辛抱が支えたヒット作 一年待った草稿、涙あふれた」朝日新聞夕刊

²⁰ 前掲こうの後書き、102頁。

²¹ 前掲こうの後書き、102頁。

²² 前掲川口、86頁。

²³ (2005.8.6)「被爆女性を描いたマンガが海外で出版される」朝日新聞

たが、ネット上の情報によると、『夕風の街』が最初に世に出たのは2003年8月に開催されたコミティア65という同人誌即売会での見本誌としてであるという。これが事実であれば、第1話の「夕風の街」は早い段階ですでに出来上がったのにもかかわらず、なぜ秋になってから雑誌に掲載されたのか、また、雑誌掲載を予定している際に、なぜ同人誌即売会にて見本誌を配布したのか、といった疑問が生じてくる。普通なら、雑誌に掲載されるマンガは、コミティアにて見本誌を出す必要もなければ、自費出版を考える必要もないはずである。その第1話である「夕風の街」が、このような回り道で世に出た理由として考えられるのは、「被爆を扱った難しいテーマだけに商業誌で発表できない可能性もあった²⁴」という、作者の懸念が強く影響していると思われる。

実際、1987年に『はだしのゲン』が出版されてから2004年に『夕風の街 桜の国』が出るまでの17年間において、原爆を扱ったマンガが商業誌に掲載されたのは1作²⁵だけである。もちろん、「夕風の街」を掲載した双葉社も、かつて原爆マンガを取り扱った経験がなかった。そのため、たとえ編集者に「広島の話を描いてみない？」と声を掛けられたとしても、果たして、このようなマンガが売れるかどうかも未知だけでなく、原稿を出版社に持ち込んだとしても、編集会議でストップされて、出版を見送られてしまう可能性も大いに考えられるのである。

そうした中、マンガを手掛けるために1年間を費やして、原爆に関する資料を読みあさったこうのは、「さまざまな文献を読むと、被爆者の『語りたくない』という言葉によく出会います。だったら、被爆者の代わりになって語る人が必要になるはずだ²⁶」との思いを抱き、「伝えるぐらいの役割はせめて負うべきなのだ²⁷」と考え、この作品を自費で出版する道も探っていたという²⁸。ただ、自費出版の作業を進めてい

²⁴ 前掲「「夕風の街 桜の国」編集者が明かす誕生秘話」を参照。

²⁵ 1987年から2003年までで、『シリーズ戦争—5 赤い靴はいた』（1991）、『風のように炎のように 峠三吉』（1993）、『講談社漫画文庫 語り継がれる戦争の記憶 3「ヒロシマの証言者」「収容所から来た遺書」』（2002）という3作が出版されているが、うち2作の掲載誌は学術や教育に向けたもので、『語り継がれる戦争の記憶 3「ヒロシマの証言者」』のみが講談社によって商業誌に掲載されたものである。詳細は巻末資料1を参照されたい。

²⁶ こうの史代、染谷誠、芳野滋（2005.12）「時代のカタリスト 36『夕風の街 桜の国』を歩く」日本能率協会、24頁。

²⁷ こうの史代（2003.11.16）「のののト19（の乃野屋）」

²⁸ 「本年のマンガ界の最大の収穫と評価の高いこうの史代さん（の乃野屋／今回のスペース…014B）」

る中、2003 年 8 月に双葉社が、『weekly 漫画アクション』を同年秋で休刊することを発表した。そして、これをきっかけして、休刊直前となる『weekly 漫画アクション』2003 年 9 月 30 号に「夕風の街」が掲載されることになった。つまり、このような転機は、休刊が発表された雑誌としては、たとえ売れ行きが芳しくなくても、もしくは、原爆を扱った作品を掲載したことで批判を受けても社運を賭けるほどのこととはならないであろうといった、いわば大人の事情によって訪れたものといえるのではないかと考えられよう。

(表 1: 『夕風の街 桜の国』の発表経緯)

作品名	掲載誌	発表時期	備考
「夕風の街」見本誌	同人誌即売会コミティア 65	2003 年 8 月 31 日	自費出版を着手
「夕風の街」	Weekly 漫画アクション 2003 年 9 月 30 日号	2003 年 9 月 16 日発売	休刊直前の『Weekly 漫画アクション』37 号で発表され(休刊は 39 号)、ネット上で読者からの大きな反響を得る。
「夕風の街」自費出版	同人誌即売会コミティア 66	2003 年 11 月 16 日	
「桜の国 (一)」	漫画アクション 2004 年 8 月 6 日号	2004 年 7 月 20 日発売	
「桜の国 (二)」	単行本『夕風の街 桜の国』	2004 年 10 月 20 日発売	

こうした経緯を経て、シリーズ第 1 話である「夕風の街」が雑誌に公開されると、不評や批判を恐れている出版社の予想が運よく外れ、たちまちにネット上で大きな反響を呼び、日本で著名なインターネット掲示板である「2ちゃんねる」でさえ、ファンによる熱心な意見交換が行われ、漫画アクションのスレッドが「夕風の街」の話題

の「夕風の街」は、『週刊アクション』（双葉社）に掲載されましたが、最初に発表されたのはコミティア 65 の見本誌でした。その後、こうのさんとお話した時に、被爆を扱った難しいテーマだけに商業誌で発表できない可能性もあったけれど、その時はコミティアで出せばいいや、という安心感があったと話してくれました。私は「夕風の街」を読んで泣き、その言葉を聞いてもう一度泣きました。詳しくは、中村公彦（2003. 11. 16）ごあいさつ（COMITIA66）<https://www.comitia.co.jp/history/066greeting.html> を参照されたい。（最終閲覧日：2019. 2. 20）

なお、『夕風の街』の自費出版は 2003 年 8 月から進められ、同年 11 月開催のコミティア 66 にて自費版の『夕風の街』が世に出されたという。

に支配されたという²⁹。ネットに流れる読者の反響を受け、出版社は、「このリアクションは新鮮で面白い、と定点観測していました³⁰」と述べるなどし、それ以来、その姿勢を一変させ、戦争や原爆をテーマとしたマンガを積極的に受け入れる傾向が見られるようになった。

また、「夕風の街」が掲載された後に休刊となった『weekly 漫画アクション』は、その半年後、隔週発行の『漫画アクション』として復刊した³¹。そして、復刊直後、出版社が望んでいた「夕風の街」の続編となる「桜の国（一）」（2004 年 8 月）が同誌に掲載され、さらに、同年 10 月に出版された単行本『夕風の街 桜の国』に、「桜の国（二）」が描き下ろしで収録された。

なお、マンガ出版の場合、本編が雑誌に掲載された後に単行本に収録されるのが通常なのだが、『夕風の街 桜の国』の場合、被爆後 60 年を目前にする中で文化庁メディア芸術祭に投稿するために、急きょ、雑誌に掲載中でまだ物語が終結していない状況下で、単行本を出版したのである。その上、発売された単行本の帯には、「実にマンガ界この十年の最大の収穫だ³²」と記され、ネット上での反響を背景にして、今度は、原爆マンガの珍しさをあえて売りにして『夕風の街 桜の国』をアピールしたのである。そして、出版社側のこうした宣伝戦略により、この史代も原爆作家として捉えられるようになった。

ただ、この自身は、単行本を駆け足で出版することや、原爆作家と称されることなどは、想定、もしくは望んではいなかったようである³³。しかし、版元のこうした一連の販売戦略やネットでの反響や話題が相乗的に作用し、『夕風の街 桜の国』は、ついに第 8 回文化庁メディア芸術祭のマンガ部門で大賞を受けることとなったのである。そして、同賞を受賞する以前は、マスメディアに注目されなかったがこの史

²⁹ 前掲川口、86 頁。

³⁰ 注 15 に同じ。

³¹ (2004. 4. 21) My News Japan 漫画アクション復刊社会問題軸 <http://www.mynewsjapan.com/reports/24> (最終閲覧日：2019. 2. 20)

³² この史代 (2004. 10. 20) 『夕風の街 桜の国』（初版）の帯、双葉社

³³ 編集者の談話によれば、「最初、このさんはとにかく不安でしょうがなかった。描いちゃいけない世界に踏み込んでしまった、体験者でもなく、語るべき立場でもないのに、という……。単行本になった後も“原爆作家”にとらえられることには居心地の悪さを感じていたようです」とされている。詳しくは、(2010. 12. 22) 「夕風の街 桜の国」編集者が明かす誕生秘話 (NIKKEI STYLE) を参照。

代と本作は、これをきっかけに、マスメディアに取り上げられようになり、その人気徐徐に高まった。さらに、手塚治虫文化賞の新生賞も立て続けに受賞し、マスメディアによってますます宣伝されるようになった。また、単行本が増刷される際、朝日新聞が2週連続で取り上げたが、こうしたメディアによる報道も、単行本の宣伝帯にちやっかりと刷り込むなど、メディア報道を積極的に利用している様子もうかがえる。そして、メディアへの露出がこうして増加した以降、この史代は更に出版社の依頼を受け、戦争をテーマとしている『この世界の片隅に』（2008-2009、双葉社）と東日本大震災に関する『日の鳥』（2014. 4、日本文芸社）とを手掛けるなど、原爆・原発マンガ家としての道を歩むようになったのである。

四、おわりに

前述したように、『夕風の街 桜の国』は雑誌で発表した後、2004年12月に第8回文化庁メディア芸術祭のマンガ部門で大賞を、2005年5月に第9回手塚治虫文化賞の新生賞を、それぞれ受けるなど、実に多くの受賞歴を誇っている。また、それだけでなく、その海外での翻訳版も続々と世に出され、実に10カ国語以上の翻訳作品が出版されている。

マンガ作品の絶好調な売れ行きを背景に、2007年には写真映画化の企画が持ち上がり、同年7月28日には同名の実写映画が公開された。そして、その映画作品も、第81回キネマ旬報ベストテン（2007年）で第9位にランクイン、第17回日本映画批評家大賞（2007年）で作品賞を受賞するなどし、さらに、本作品に出演した麻生久美子はその演技が認められ、第32回報知映画賞（2007年）で最優秀出演女優賞を、第62回毎日映画コンクール（2007年）で女優主演賞を、第50回ブルーリボン賞（2007）で主演女優賞といった、三大賞を受けた。

その後も、同作品の勢いはとどまることを知らず、2007年7月には双葉社より、著者を国井桂・この史代とする映画版『夕風の街 桜の国』のノベライズが出版された他、さらに、2017年には、この史代の『夕風の街 桜の国』を原作とした舞台劇が、8月19、20日に大阪のHEP HALLで、8月30日から9月3日に東京のシアターグリーン BIG TREE THEATERで、それぞれ上演された。そして、これと前後して、同年7

月には、著者・蒔田陽平、イラスト・こうの史代とする、原作版マンガ『夕風の街 桜の国』のノベライズが出版されるなどしている。

このように、『夕風の街 桜の国』は、マンガから映画、さらに小説や舞台劇までと、実にさまざまな芸術ジャンルを超えている作品となっている。ただ、周知のように、一つの作品の成功は、その作品や作者自身の優秀さのみならず、版元の販売戦略なども強く関わっていると言えよう。そしてもちろん、この作品も例外ではなく、その背後にあるメディアミックス戦略は、容易に看過できない。現代社会におけるマーケティングでは、複数のマスメディアを組み合わせる広告戦を行う傾向にあらうが、『夕風の街 桜の国』の場合、ネットの言説からその波紋が広まっていったと言っても過言ではなく、一つの特徴が見いだされるのである。

【付記】本稿は科技部人文社会科学研究中心（科技部跨領域計畫之前置規劃案）「綠繪本中的核表述與科技應用」（計畫編號：MOST 104-2420-H-002-016-MY3-PA10610）による成果の一部である。なお、資料整理、データ収集及び図表を作成してくれた、本学科の卒業生である柯俞廷、張席文、張芷嫣、蘇子禎に感謝の意を表す。

テキスト：

こうの史代（2004.10）『夕風の街 桜の国』双葉社。ただし、引用は39刷（2017.1）による。
中沢啓治（1975-1987）『はだしのゲン』全10巻、汐文社

参考文献

- 「辛抱が支えたヒット作 一年待った草稿、涙あふれた」，朝日新聞夕刊，
(2005. 6. 14)。
- 「被爆女性を描いたマンガが海外で出版される」，朝日新聞，(2005. 8. 6)。
- 川口隆行，「メディアとしての漫画、甦る原爆の記憶—この史代『夕風の街 桜の国』試論」，『原爆文学研究 第4号』原爆文学研究会，(2005. 8)。
- この史代、染谷誠、芳野滋，「時代のカタリスト36『夕風の街 桜の国』を歩く」，
日本能率協会，(2005. 12)。
- 吉村和真・福間良明，『「はだしのゲン」がいた風景—マンガ・戦争・記憶』，梓出
版社，(2006. 7)。
- 浜邦彦，『夕風の街 桜の国』に見る身体、言語、性』，『アジア太平洋研究センター年
報 第5号』アジア太平洋研究センター，(2007)。

ネット資料：

※本論文執筆に際し参照したインターネット情報は、特に断りのない限り、2019年2月20日最終閲覧にもとづく。

My News Japan 漫画アクション復刊社会問題軸，(2004. 4. 21)。

<http://www.mynewsjapan.com/reports/24>

「夕風の街 桜の国」編集者が明かす誕生秘話 (NIKKEI STYLE)，(2010. 12. 22)。

<https://style.nikkei.com/article/DGXZZ019087110Z21C10A1000000?channel=DF130120166059&page=9>

「アラフォー世代のトラウマ映画：『はだしのゲン』『震える舌』『この子の七つのお祝いに』ほか」，(2017. 3. 17)。

<https://middle-edge.jp/articles/wf54I>

User Local テキストマイニングツール 検索結果，(2019. 1. 22製作)。

<https://textmining.userlocal.jp/results/XtwvGjrgHFfzsswFxmTrr3JqMSEvirZ>

(最終閲覧日：2019. 2. 20) AMAZON『夕風の街 桜の国』カスタマーレビュー

https://www.amazon.co.jp/%E5%A4%95%E5%87%AA%E3%81%AE%E8%A1%97-%E6%A1%9C%E3%81%AE%E5%9B%BD-%E3%82%A2%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3%E3%82%B3%E3%83%9F%E3%83%83%E3%82%AF%E3%82%B9-%E3%81%93%E3%81%86%E3%81%AE-%E5%8F%B2%E4%BB%A3/dp/4575297445/ref=cm_cr_arp_d_product_top?ie=UTF8

巻末資料1：2019年現在までに出版された原爆マンガの一覧

	作者	出版年	作品名	出版社	備考
1	谷川一彦	1960	星は見ている		全2巻
2	中沢啓治	1975-1987	はだしのゲン	汐文社	全10巻
4	あすなひろし	1976 初出	ぼくのとうちゃん	汐文社	うち、第4話「山ゆかば」
5	手塚治虫	1983	ブラック・ジャック 16(手塚治虫漫画全集 166)	講談社	うち、「やり残しの家」
6	草河達夫 旭丘光志	1983	ある惑星の悲劇	ほるぷ出版	
7	弘兼 憲史	1989	ハロー張りネズミ 23巻	講談社	うち、「1945年夏物語」
8	あおきてつお	1991	(シリーズ戦争5) 赤い靴はいた	草土文化	
9	岩崎健二	1993	峠三吉一風のように炎のように	峠三吉記念事業委員会	
11	三枝義浩	2002	(語り継がれる戦争の記憶3) 「ヒロシマの証言」「収容所から来た遺書」	講談社漫画文庫	
12	こうの史代	2004	夕風の街 桜の国	双葉社	
13	かわぐちきょうじ	2004	花を見るかな	ガリバープロダクツ	
14	中沢啓治	2005	黒い雨にうたれて	ディノボックス	
15	ごとう和	2006	生きるんだ ヒロシマから 今 いのちのメッセージ	秋田書店	
19	あすなひろし	2008	林檎も匂わない	エンターブレイ	「林檎も匂わない」 「山ゆかば」
17	松尾しおり	2008	君がくれた太陽	講談社	上下編
19	こうの史代	2008-2009	この世界の片隅に	双葉社	全3巻

20	白土三平	2009	消え行く少女	小学館クリエティブ	前後編
21	西岡由香	2010	九月九日のサンタクロース	凱風社	
22	西岡由香	2012	さよならアトミック・ドラゴン	凱風社	
23	さすらいのナガブン	2012	原爆に遭った少女の話	Game&c G	ネット
24	手塚プロダクション 青木健生	2015	まんがで語りつぐ広島の復興：原爆の悲劇を乗り越えた人びと	小学館クリエティブ	
25	西岡由香	2015	被爆マリアの祈り—漫画で読む三人の被爆証言	長崎文献社	
26	奈華よしこ・ 松尾あつゆき・ 平田周	2017	子らと妻を骨にして—原爆でうばわれた幸せな家族の記憶	書肆侃侃房	

(広島平和記念資料館「原爆・平和を語りつぐ まんが図書リスト」に基づき筆者作成)

從原爆漫畫看網路言論與販售策略間的關係 ——以河野史代『夕嵐之街 櫻之國』為中心——

何資宜

國立高雄大學東亞語文學系 助理教授

徐柏茵

國立臺灣大學日本語文學系 碩士生

摘要

『夕嵐之街 櫻之國』(2004、双葉社)發行時，即喊出「獻給廣島的日本的愛這世界的所有人」之宣傳口號。而那段過往也因此被定義為，「廣島原爆事件的教訓不僅只於日本人，而是與世界上的所有人有著密不可分的關係，是全世界須共同面對之歷史事件」。藉由這樣的宣傳，這部原爆漫畫也因此躍上全球各地的媒體。

有趣的是，自從原爆漫畫始祖『赤腳阿元』(1975-1987、汐文社)出版以來的17年間，以原爆為主題的漫畫可說是極為稀少。但在『夕嵐之街 櫻之國』問世後，原爆漫畫卻如雨後春筍般大量出現。極端一點說是「超越了漫畫，形成一股社會現象」也不為過。本稿欲透過創造此一社會話題之『夕嵐之街 櫻之國』，檢視網路間流傳之讀者言論，探討過往被視為禁忌的原爆漫畫，在網路時代的今日是如何被型塑・消費與傳播。

關鍵字：原爆漫畫、『夕嵐之街 櫻之國』、HIROSHIMA、網路言論、販賣策略

The Relation between Network Speeches and Selling Strategies from the Perspective of the Original Cartoon

—Focusing on *Yunagi City, Sakura Country* of Fumiyo Kōno—

Tzo-i Ho

Assistant Professor, Department of East Asian Languages and Literature, National University of Kaohsiung

Hsu Po-Yin

Department of Japanese language and literature, National Taiwan University

Abstract

When *Yunagi City, Sakura Country* (2004, Futabasha Publishing) was released in 2004, it was "dedicated to Hiroshima, to Japan, and to all the people who love the world." That time in history was also defined as "the lessons of the Hiroshima atomic bombing are not only for the Japanese, but also closely related to all the people in the world. It is a historical event that the whole world has to face together." With such publicity, the original cartoon spread throughout the media all around the world.

During the 17 years since the publication of the first atomic-bombing cartoon *Barefoot Gen* (1975-1987, Chobunsha Publishing), cartoons under the theme of atomic bombing have been extremely rare. However, with the advent of *Yunagi City, Sakura Country*, atomic-bombing cartoons have become very popular. In the extreme, it can be said that they have gone "beyond the field of cartoons to form a social phenomenon". This paper focuses on *Yunagi City, Sakura Country*, which has triggered various social topics, in order to examine readers' comments that have circulated around the Internet and to explore how atomic-bombing cartoons, which were regarded as taboos in the past, are shaped, consumed, and spread in the Internet age today.

Keywords: atomic-bombing cartoon, *Yunagi City*, *Sakura Country*, Hiroshima, network speeches, selling strategies